

## 教育、研究の評価

### について最近思うこと

高松 武一郎

最近、大学の内外で、「自己評価」、「自己点検」などという言葉をよく耳にする。一般に、「評価」というものは極めて難しいものである、と私は考えている。たとえそれが人工的に造られたものであっても、その正常運用時の利便性、経済性、異常時の対応性、安全性、対人間・社会性は、などと非常に多岐に亘る評価が考えられねばならない。また、この世の中に出現してきたものは、その価値が誕生時のまま永遠に不変ということはなく、その存在価値は変化してゆき、多くは何時かは不要のものになって行く。であるとする、人工物の価値は、その利用空間での価値のみに基

づいて評価されるべきでなく、それが不要になった時の処置、処理のことまでを考慮にいれた評価がなされねばならない。まして、評価の対象が「教育、研究」という学問的活動となると、その客観的評価の難しさは、前記の人工物に対するものと比較することすら無理なほど、筆舌に尽くし難い難しさがある。教育、研究という学問的活動が、社会においてその存在が容認されているのは、それによって、将来、社会に貢献するであろう人々の人間形成や社会構成に益するところがあるからであろう。とすれば、教育、研究のような学問的活動は十〜二十年後、ある

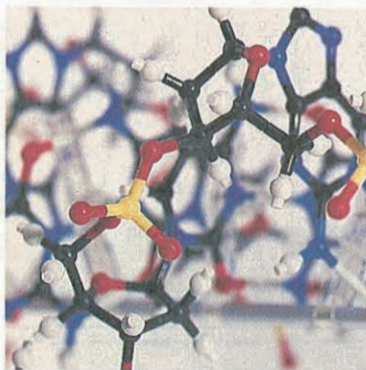
いはもつと後になって、結果的に評価されるべき、という基本的性質を持つている。一方、教育、研究という学問的活動を、現時点で評価しようとするならば、評価の対象となる学問的活動の内容を熟知していなければならぬことは勿論、その活動の将来における対人間・社会性についての責任ある見識が不可欠である、という人間にとって殆ど不可能な事柄が要求されることになる。特に、未知、未明の事柄を明らかにするための研究の評価について考えてみると、もしある研究について、完全な評価が出来る、即ちその研究の内容について熟知している人が存在するとすれば、その研究自体の遂行が無意味になってしまう、という矛盾も生じてくる。

このような大変な難しさがあるからといって、数十年後を目標にした現在の学問的活動が、現在社会に無関係に自由奔放であつてよい、あるいはまたその活動を行う人の社会性を無視した個人的興味に従うのみで十分である、ということにはならない。なぜならば、たとえ将来の社会のために行われている学問的活動であっても、その活動自体は現在の社会の中に存在し、現在社会からその存在の合理性の容認を受けなければならぬからである。

### 星空と地球

地球上の人間社会の価値観が変動して行く中で、将来のために行われる学問的活動の評価、容認を如何に合理的に行うかは、永遠の課題であろうが、間違いない事実が一つ存在する。それは、評価、容認する側が、その対象について何の情報も持たずに評価、容認出来る筈はなく、また活動する側がその活動の目標、意義などについて周辺に何の情報をも提供しなかつたならば、評価、容認の対象になる筈はない、ということである。将来の人間社会のための学問的活動が、現在社会の中で容認、遂行されているのは、世界の人々の理解と協力、後援があるからこそである、ということが、間違いない事実である以上、その活動の評価、容認を受けるために、周辺にその活動の目標、意義などについて積極的に情報を提供するべく努力することは、当然の事柄である。

「自己評価」、「自己点検」を行って、その情報を公開することの意義は、ここに存在している、と私は考えている。将来を見通した崇高な学問的活動を行っているのであるから、世間がその活動を積極的に後援するのは、当然のことである、といった考え方が、もし学問的活動をしている側にあるとするならば、それはとんでもない思い上がりというべきであろう。



遺伝子 DNA 螺旋モデル

### HEADLINE

- 2 面 三つのパソコン講習会
- 3 面 社会学部の「シラバス」と
- 4・5 面 特集 商学部の自己推薦入試「ボランテニア活動に参加して」
- 6 面 集中コミュニケーション講座

(工学部教授)

(H・Y)



就職活動シーズン突入▼最近、初めて就職した職場に停年まで勤めるといふパターンが少なくなってきているが、冷静に分析すると転職が成功した例は少ない。それなら、来春就職する職場での生活が自分の人生の多くを占めることになる。そのため学生諸君は今、熱心に資料を分析し、真剣に就職活動を行っている。今のために、今までに準備万端整えてきたか。学力だけでなく、人格も、人との会話の仕方。その時になればできるかと安易に過してきたのではないか。仕事についてから、必要になった時勉強したらよい、ぐらいいのかるい学生生活を送っていないか▼入学した年は売り手市場で、その様子を見ていた学生にとって、現状は特に厳しいと感じるかも知れない。簡単に採用される時より、厳選されて採用された方が本人の心構えも違うし、周囲の期待も大きいはずだ。就職の苦労から職業というものを冷静に考える機会ができたなら、それも人生の貴重な経験になるだろう▼四年生でないからそんなのききな、いやいや、まだまだ切実感は乏しい。関西大学で学んできたことを、本当に誇りを持って話せる学生に展望が開ける。





メモリアルキルトをつくるボランティアたち

### エイズ死への追悼 メモリアルキルト

鈴木 香奈子

私は昨年(一九九二年)の四月、エイズで亡くなった人達... 追悼の気持ちを込めて、メモリアルキルトを作りました。...

## 活動に参加して

「ボランティア活動」という言葉は、「困りごとを自ら積極的に助け出す」という意味... 活動を通じて、自分自身も成長している。...



クラッカーを鳴らして盛り上がる

### 不登校の中の男子

白井 勝彦

比較的年齢に近い私たちが、不登校になった。... 学校生活は、想像以上に大変だった。...

## ボランティア

私は、活動を通じて、自分自身も成長している。... ボランティア活動は、社会貢献だけでなく、自分自身の成長にもつながる。...



電車の路線角をのりゲーム

### 遊べば心を開く

松山 哲也

以前はボランティア活動が中心だったが、彼れは電車を中心に行ってきた。... 遊べば、心を開き、人とつながることができる。...

## 放課後の障害児保育



障害児(者)問題実践研究サークル「やじろ兵衛」の室内活動

土曜日の午後一時から五時までは、障害児保育水曜日の午後... 放課後の障害児保育は、子どもたちの成長を支える重要な役割を果たしている。...

## 不登校児とともに

「関大通信」の欄を依頼されたとき、私は正直に「不登校児」と呼ばれる子どもたちについて、自分自身も経験があることを話した。...

### 居場所作り遊ぶ

「関大通信」の欄を依頼されたとき、私は正直に「不登校児」と呼ばれる子どもたちについて、自分自身も経験があることを話した。...



児童文化研究サークル「あかとんぼ」の野外活動

「あかとんぼ」の野外活動は、週一回の吹田市内の学童保育施設の訪... 子どもたちの成長を支援するために、様々な活動を行っています。...

## 人形劇で地方回り

「あかとんぼ」の野外活動は、週一回の吹田市内の学童保育施設の訪... 人形劇を通じて、地域の子供たちと交流しています。...

「あかとんぼ」の野外活動は、週一回の吹田市内の学童保育施設の訪... 地域の子供たちと交流し、成長を支援しています。...



児童文化実践サークル「うぶ」の野外活動

「うぶ」の野外活動は、週一回の吹田市内の学童保育施設の訪... 子どもたちの成長を支援するために、様々な活動を行っています。...

## 吹田の子たちと遊ぶ

「うぶ」の野外活動は、週一回の吹田市内の学童保育施設の訪... 吹田の子供たちと遊び、成長を支援しています。...

「うぶ」の野外活動は、週一回の吹田市内の学童保育施設の訪... 吹田の子供たちと遊び、成長を支援しています。...



学術情報センターは昭和六十一年四月に学術情報の収集、整理、提供並びに学術情報及び学術情報システムに関する総合的な研究と開発を目的として設置されたものである。

# 図書館における学術情報センターシステムの利用



NACSIS-CATを利用した遡及入力作業

学術情報センターは昭和六十一年四月に学術情報の収集、整理、提供並びに学術情報及び学術情報システムに関する総合的な研究と開発を目的として設置されたものである。学術情報センターの事業内容で図書館と密接にかかわるものとして、①図書・雑誌の目録・所在情報の形成及び迅速・的確な提供サービス、②二次情報(書誌、抄録、数値、画像等)の迅速・的確な提供サービス、③データベース形成の促進等が挙げられる。

1 図書館間相互利用システム (NACSIS-III) 図書館間の文献複写や現物貸借に関する通信・連絡業務を電子的に行うことにより、業務の省力化と文献入手に要する日数の短縮化を図るシステムである。

2 情報検索システム (NACSIS-IR) 学術研究の動向に伴って、日々生産される学術情報は著しく増大し、多様化している。この情報化時代の中で、学術情報の流通が学術研究の展開を左右するといわれていることから、学術情報センターではあらゆる分野にわたる学術情報を蓄積し、研究者等に必要情報を迅速かつ的確に提供することにより、研究支援を図るシステムである。

3 目録所在情報システム (NACSIS-CAT) オンライン・ネットワーク方式により全国規模の総合目録データベース(図書・学術雑誌)を形成するシステム。各大学図書館での入力作業を効果的に行えるよう標準的書誌データベース(JAPAN誌データベース、JAPAN-MARCやUS-MA-RC等)が参照できることも、全国の大学図書館において共同分担方式により、目録作業の重複を防ぎ、省力化と処理の迅速化を図るシステムである。平成五年一月末現在二九九(国立大九十六、公立大十四、私立大一〇五、全国共同利用機関十一、短期大四、高専二、その他七)の機関が接続している。

図書館利用者にとってあまり馴染みのないシステムであるが、本学図書館ではこれらのシステムを利用することにより利用者の図書館利用効率の向上を図っている。利用の一例として、これまでは本学図書館に所蔵しない図書を探する場合、学外のほいほい図書館に電話で所蔵の問い合わせをするなど大変な時間と労力を要したが、今ではいとも簡単に所蔵先がわかると同時に複写や現物貸借の事務手続きができるようになった。課題は過去長年にわたる全国大学図書館等で収集された図書の所蔵データが蓄積されていないことである。ちなみに、本学図書館では当システムを利用して、一部の図書

誌データベース(JAPAN誌データベース、JAPAN-MARCやUS-MA-RC等)が参照できることも、全国の大学図書館において共同分担方式により、目録作業の重複を防ぎ、省力化と処理の迅速化を図るシステムである。平成五年一月末現在二九九(国立大九十六、公立大十四、私立大一〇五、全国共同利用機関十一、短期大四、高専二、その他七)の機関が接続している。

最後に、情報検索システム(NACSIS-IR)は本学情報処理センターの汎用機を利用して個人的にも利用できることを申し添えておきたい。

本学における初の外国語集中講習会が今年の夏休業から行われる。講習は一年度につき三回、夏休業開始直後(七月二十一日)、「二十五日」、夏休業終了前(九月十四日、十九日)および春季休業終了前(三月二十三日、二十七日)に催され、講師は、本年度から発足した英語コミュニケーションを担当している、口頭伝達能力育成に優れた指導者である、特任外国語講師三人(米国出身者二人、英国出身者一人)が務める。

応募資格は、英語I・IIIが必修であり、教科書と教材が用いられ、担当者は口頭伝達能力を高めることを目指している。この講習は卒業生均一に受け持つ。五日間と一口頭での確実な応答を各受講生に体得させることができる。詳細は各学部に掲示されている。講習オーディオ・ビジュアルの能力と認識をさらに高め、この異同を見分ける能力と感性を各受講生に体得させる。

「道徳と中国文化」 坂出祥伸監訳 (東方書店・四八〇〇円) 中国の社会と文化が儒教倫理を基盤として成立し発展したものであることは疑いのない事実である。が、それはあくまでも表面に現れたタテマエに過ぎない。

「泣菫随筆」 谷沢永一編 (富山房・一一〇〇円) 薄田泣菫は、明治期屈指の名詩集『暮笛集』や『白羊宮を残した詩人である。蒲原有明と共に浪漫詩の円熟を見

「北米運河史研究」 加勢田博著 (関西大学出版部・四八〇〇円) いまでは海運のため運河が開鑿されることは少ないが、十九世紀には盛んに行われ、各地で建設されたことから

「広告の心理学」 林 英夫 共編著 (日経広告研究所・三〇〇〇円) 広告は企業のマーケティング活動の一環であり、販売促

「新刊紹介」 グラフ著者 文学部教授 植松健郎訳 「ぼくらは囚人だ」 (関西大学出版部・七〇〇〇円) グラフのこの自伝的作品は、第二次大戦後、アメリカはいうに及ばずヨーロッパ諸国においてもついに翻訳されている。今回植松健郎の手によって、日本において初めて翻訳された。グラフ自身は、いわゆるボヘミアンであった。一九〇〇年代のドイツの作家集団は、このボヘミアンといわれるタイプに属する。「ぼくらは囚人だ」は、この間の事情をよく伝えている。ドイツでは、一九〇〇年初頭から一九一九年のハイムン・レーテ革命に至る時期は、歴史書よりこの作品の方が現実的かつ具体的であるといわれている。

この情報は、従来、書名でしか検索できなかったが、その図書データの品質を向上し、著者名や出版者等の検索ができるよう遡及入力を行っている。更に、遡及入力したデータを学術情報センターに登録するようにもしている。他大学図書館が遡及入力をすれば、たちまち課題は解消されるが、今後に期待したい。なお、学術雑誌に関しては、全国の大学図書館等で所蔵しているデータが登録されている。

「新刊紹介」 ナチスの焚書事件との関連で有名である。そのために、彼はアメリカに亡命せざるを得なかった。表現主義者エルンスト・トラーはアメリカにおいて自殺を遂げたが、グラフはアメリカ滞在中に亡命も英語を話さず、亡命中はドイツ語で終始したことに、彼の特異な性格が表れている。ともあれ、革命期のドイツを知る上でも、この作品はたいへん興味深い。

「道徳と中国文化」 坂出祥伸監訳 (東方書店・四八〇〇円) 中国の社会と文化が儒教倫理を基盤として成立し発展したものであることは疑いのない事実である。が、それはあくまでも表面に現れたタテマエに過ぎない。

「泣菫随筆」 谷沢永一編 (富山房・一一〇〇円) 薄田泣菫は、明治期屈指の名詩集『暮笛集』や『白羊宮を残した詩人である。蒲原有明と共に浪漫詩の円熟を見

「北米運河史研究」 加勢田博著 (関西大学出版部・四八〇〇円) いまでは海運のため運河が開鑿されることは少ないが、十九世紀には盛んに行われ、各地で建設されたことから

「広告の心理学」 林 英夫 共編著 (日経広告研究所・三〇〇〇円) 広告は企業のマーケティング活動の一環であり、販売促

「新刊紹介」 ナチスの焚書事件との関連で有名である。そのために、彼はアメリカに亡命せざるを得なかった。表現主義者エルンスト・トラーはアメリカにおいて自殺を遂げたが、グラフはアメリカ滞在中に亡命も英語を話さず、亡命中はドイツ語で終始したことに、彼の特異な性格が表れている。ともあれ、革命期のドイツを知る上でも、この作品はたいへん興味深い。

「道徳と中国文化」 坂出祥伸監訳 (東方書店・四八〇〇円) 中国の社会と文化が儒教倫理を基盤として成立し発展したものであることは疑いのない事実である。が、それはあくまでも表面に現れたタテマエに過ぎない。

「泣菫随筆」 谷沢永一編 (富山房・一一〇〇円) 薄田泣菫は、明治期屈指の名詩集『暮笛集』や『白羊宮を残した詩人である。蒲原有明と共に浪漫詩の円熟を見

「北米運河史研究」 加勢田博著 (関西大学出版部・四八〇〇円) いまでは海運のため運河が開鑿されることは少ないが、十九世紀には盛んに行われ、各地で建設されたことから

「広告の心理学」 林 英夫 共編著 (日経広告研究所・三〇〇〇円) 広告は企業のマーケティング活動の一環であり、販売促



今月の表紙 高松武一郎(たかまつ たけいちろう) 教授 専門はプロセスシステム工学。化学プロセスの最適設計、運用・制御の方法論を中心に研究を進め、その業績は世界的に評価されている。

編集後記 今号は六面構成で編成している。従来この時期に掲載されてきた関西大学の決算を、別冊として分離したことによる。枚数は少ないが内容は豊かである。第三面では、少し紙面を使って、社会学部のシラバスと商学部自己推薦入試に関する紹介記事を掲載した。大学が社会の中で果たすべき役割を考えると、今後は各学部において、さまざまな改革の動きが広がっていくことが予想される。「通信」でも可能な限り早く記事にして、情報提供の役割をはたしたい。また第四・五面では、学生がおこなっているボランティア活動について、特集を組んでみた。いろいろ考えさせられたが、指示待ち人間など、やめられている学生たちの別の一面を見せてもらったように思う。四月から宇佐見幸彦、横田勝弘両先生が新しく委員に選ばれた。(芝井・矢木)